

中経論壇

経営支援NPOクラブ監事

関口 清



とで、私に白羽の矢が立った。囲碁が国際親善の役に立つならば、とお引き受けした次第である。

首都ティンプーに入って3

日目、国王の居宅に招かれた。

国王は自らわれわれの車の前

まで出迎えてくれた。オック

スフォード大学留学等をなさ

った国王は、美しい英語で、

日本を尊敬していること、今

後ブータンに柔道と囲碁を導

入・普及させたい、というこ

とを話された。初代国王の時

代には、囲碁がたしなまれて

いたようで、王室ゆかりの古

い寺院の物置から碁石が出て

きたとのことである。

囲碁の神髄を理解する国王

ブータン 囲碁訪問記

国王は9路盤ネット碁を打たれていて、その記録を示されたり、新たにその場で打ち始められたが、対戦は別の機会におこなうこととした。国王からの囲碁に関する質問は、基本的な内容だったことから、まだ始められて日が浅いとの印象を受けた。

正にこちらから話そうと思っていたことを、先におっしゃられたのである。ブータンには伝統的な精神文化が存在するが、急速な携帯電話やインターネットの普及による国際化によって、若者の考え方は変わりつつあり、こうした状況を危惧されての国王のお言葉ではないかと想像した。

しかし、囲碁の効用について、「自ら学び、考える力をつけてくれる。集中力も養い、コミュニケーション力もつけてくれる。若者の教育にも取り入れたい」と述べられたのにはびっくりさせられ

国内の政治事情もあり、国王が非常に多忙になられたことから、二度目の調見は実現しなかったが、関係者による豪華な晩餐会への招待など、秘書室長を通じてのお心遣いを感じられて恐縮した。

今後、ブータンの若者への囲碁普及が実現できるよう、各種囲碁資材の提供を行い、在ブータンの日本人の方とも連絡を取り、簡単な囲碁指導を行ったが、こうした活動が、将来の両国関係の発展のために役立つことを願ってやまない。